



ご飯を食べてパワーアップ —食育の紙芝居—



紙芝居を楽しむ園児たち

農業委員とアメニティ活動推進員の女性8人でつくる「おにぎりの会」では、子どもたちに、お米のおいしさと農業への関心を持ってもらうことを目的に、食育をテーマにした紙芝居『ごはんパワーでへんしん!』を制作しました。そして、7月11日に、成器南幼稚園で、5歳児の15名を対象に、初上演をしました。

この紙芝居は、突然園児の前に現れた恐竜を、園児の変身による「おにぎりマン」が退治しようとしたところ、恐竜は初めて見たご飯に興味を持っただけだと分かり、園児が恐竜に米の作り方を教え、一緒にご飯を食べるといった内容です。朝食を食べない子が増えるといった最近の食生活を見直し、ご飯の大切さを訴えるものになっています。園児たちは、恐竜や「おにぎりマン」が登場すると目を輝かせ、紙芝居の世界に入り込んで楽しんでいる様子でした。

紙芝居が終わった後、上演者らは園児と一緒におにぎり作りをして、園児にご飯のおいしさを味わってもらいました。

7月中に成器北幼稚園や村岡幼稚園でも上演が行われましたが、今後の活動として小学校や保育園で上演していく予定です。



おにぎりを食べる園児

平泉寺の苔を守るろう

7月30日、平泉寺白山神社境内において、苔の中に生えた草の摘み取りボランティアが行われました。これは、勝山観光協会のクリーンキャンペーン事業として、「かおりの風景100選」にも選ばれている平泉寺白山神社の景観を守ろうと呼び掛けたもので、10年以上続けられています。

朝もやの残るひんやりとした空気の中、地元平泉寺や、観光ガイドボランティアクラブ、地元企業のかたがたなど約100人が参加しました。参加者らは拝殿周辺の参道や、普段入ることのできない苔の絨毯に慎重に足を踏み入れ、丁寧に草を摘み取っていました。

境内は、遠くで蝉の鳴き声が聞こえるだけの静寂に包まれており、1時間ほどで参加者それぞれのごみ袋が草で一杯になりました。



丁寧に草を取る参加者

織 維 展

勝山の伝統ある地場産業の繊維をアピールする「繊維展」が、7月8日と9日の両日にわたり教育会館で初めて開催されました。

会場では、スポーツ衣料や一般衣料の展示の他にも、市内外の個人やグループによる草木染めや和紙布製品、羽二重生地、手作り小物などの展示販売もありました。

その中で、現在大阪芸術大学でタペストリーやハンカチなどのデザインから、染めて織るまでの一連作業を手作りしている横井聡子さんは、来年卒業したら勝山に戻り、祖父母が止めた機業を受け継ぐとのことでした。「今は自分の好みにあった作品作りですが、これからは、顧客のニーズにあった作品にも挑戦したい。」との意気込みも聞かれました。



自慢の作品を展示する横井さん

この他に、組みひもや手織り機の実演コーナー、旧木下機業場の見学案内も行われました。旭町から見物に来た実家が機業場の主婦のかたは、「販売ルート斡旋の機能を持った組織があればいいですね。」との感想でした。



作品や小物などの展示物を眺める来場者

青春 ing



生徒会で、みんなの中学校生活を盛り上げよう

笠川 裕 史さん(14) 北郷町坂東島

北部中学校バドミントン部で活躍する笠川さんは、生徒会長もこなすバイタリティーあふれる中学生です。笠川さんは、企画をするのが好きで、校長先生の話や、生徒会の各委員会活動報告を行ったりする「ポラリス広場」や、テーマを決めてクラスごとに取り組み、2週間単位でその成果を競う「ウィークリーチャレンジ」などの企画運営の要となり、学校生活を楽しみまくるために、がんばっています。

また、「バドミントンでは、先輩からのアドバイスや練習試合は、すごく勉強になり、自分をパワーアップできます。」と話してくれました。将来は学校の先生、と夢を聞かせてくれた笠川さんは、とても笑顔が似合っていました。

仲間 GROUP

6月4日に福井運動公園で開催された、第44回福井県身体障害者スポーツ大会において、勝山市のチームが400mリレーで準優勝を果たしました。ただ、4人揃っての練習は一度もできないまま、メンバー全員が顔を合わせるのは大会当日。それでも最後の最後までトップのチームと競り合っただけに、出場した皆さんからは「惜しかった。」「きゃしい。」「と声が聞かれました。選手の皆さんは、普段からバドミントンや卓球で体を動かしており、スポーツは得意。皆さんに今回の大会の感想をうかがったところ、第1走者の宮本さんは、「マラソンを走っているので、もっと

障害者400mリレー(男子)で準優勝

健康フレッシュ

長い距離だったら力を十分に発揮できなかったけど。」と残念そうでした。第2走者の高橋さんは、「ぶっつけ本番だったけど、準優勝はよく頑張ったと思う。来年は優勝を目指したい。」第3走者の柳原さんは、「もう少しで優勝だっただけに残念。ほかの障害者のかたの励みになることができ良かった。」最終走者の新田さんは、「最後は接戦だっただけに悔しい。もう少しで優勝だったのに。来年も同じメンバーで優勝を目指します。」と、皆さん悔しそつに話し、来年に向けての意気込みを語ってくださいました。



(左後) 宮本 良寛さん(81) = 栄町4
(右後) 柳原 辰之さん(52) = 郡町1
(左前) 高橋 徳一さん(48) = 平泉寺町岩ヶ野
(右前) 新田 鉄也さん(52) = 旭町2

出会い ふれあい

北部中学校は、今年で創立50周年を迎えるため、笠川さんは伝統を活かしながら何か新しいことができなにかと、現在思考中です。こういった生徒会活動は、笠川さんに、プラス思考と周辺への気配りを身につけ